

聞く力から求められるもの

桜和高校 一年 大塚 真由実

理想の学校とはなんだらう。そう考えた時私は中学生の時に体験したある出来事を思い出した。

中学二年生の時、私は学級委員をしてみた。ある時期、授業開始に鳴る予鈴より前に着席する、という規則が乱れてくる、という問題が起き、各クラスの学級委員が声掛けを行うという話になった。ある日、クラスメイトが

予鈴が鳴り終わって後に廊下に立ちまわっているのを、別教室で作業をした帰りに出くわした私は、授業に遅れましまっていたこともあり、「早く教室戻ろ」と声をかけた。その後一時間授業を挟み、休み時間に入った時、前の授業でサボリトに入っていたA先生に声をかけられ、ついて行くと、先生の隣には拗ねた様子のクラスメイトがいた。どうしたものかとA先生の話を知ると、廊下に立ちまわっていたのは理由があつたりしてくる、注意されたのが嫌

だ。たんだ。で。だから謝る。あ。び。と。言
 われた。その時は面倒事にしたくない。一。心。で
 直ぐに謝る。だが、自分の席へ戻った後、私は
 何とも言えない気持ちになり、涙が溢れた。
 どうして先生は私の話を聞かずに、彼の主張
 だけで判断して、私に謝りさせたのだろう。と。
 私にも非がある。たかもと思いい、正直なところ
 謝ったことについて。は。な。ん。と。も。思。わ。な。か。っ。た
 の。だ。が、ただ一方の主張だけを聞いて話を終
 わらせた先生に對して、私はやるせない気持ち
 ちにな。た。そんな私を見かねて、B先生が
 落ち着けるようにと話を聞いてくれた。私は
 事の発端と、先生の対応の仕方に不服だ。た
 ことを伝えた。すると、B先生はこう言った。
 「あなた自身が非がある。たかもしれないと
 思えるのは可憐いことだし、何よりA先生が
 成長するため、あなたの話は伏せて、私か
 ら話をし。て。お。く。ね。え。A先生はB先生に比べて
 教師にな。る。か。り。日。が。浅。か。っ。た。(後日談)の
 もあ。り。た。ら。し。い。か。、それでも私は話を聞いて

欲しかっただな、と今思い出しとも思う。

この出来事を通して、私が先生から学んだ

ことは、自分の視野の広さの大切さだ。

これからは生きていく私にとっく視野の

広さ、ほとくも大事な能力だ。視野が広けれ

ば、心の余裕もできるし、何より、学校現場

や日常生活などの様々な場面が応用し、活用

するこことができる。特に、学校という個性が

溢れ、価値観の相違が生まれやすい場所では

必要不可欠だ。

私が思う理想の学校とは、聞く力から見

える視野の広さがある学校だ。これから求

められるであろうこの力を、高校三年間で経

験するこことを通して養えていき、将来、私と

同じ場面に遭遇した人や何か困っている人な

ど、たくさんの人に手を差し伸べられる、何

より私自身がこの能力を活用できる、そんな

人間になりたい。